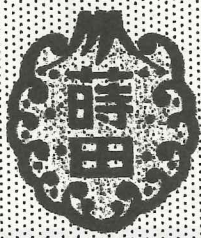


学校目標 「やる気いっぱい やさしさいっぱい 元気いっぱい 蒔田っ子」



まいた

平成30年度

7月号

平成30年6月30日

<http://www.educity.yokohama.jp/sch/es/maita/>

変わっていくこと 変わらずに大切にしていこう

副校長 猪俣 宗哉

4月に蒔田小学校に着任してまず驚いたこと。それは、子どもたちがしっかりと目を見てあいさつができることです。朝、通学路に立って登校を見守っていると、子どもたちから大きな声で気持ちのよいあいさつがたくさん返ってきます。そして、中学生や高校生、通勤途中らしき方からも自然にあいさつが返ってきます。ごみ拾いをしていると、「朝早くからご苦労様です。」と、何人もの地域の方が労いの声をかけてくださいます。子どもたちがしっかりとあいさつできる理由の一つを見つけたような気がして、異動したばかりで緊張していた私も、「あたたかい学校・地域に来たなあ。」とほっとしたのを覚えています。

それから3ヶ月が経ちました。紫陽花も咲き誇り、夏休みももう目前に迫っています。あっという間の時間のようにも感じますが、子どもたちの学習や行事の様子を見ると、それらを通して一つひとつ着実に成長をしているのを感じます。6月には2年生の岸根公園遠足、5年生の赤城宿泊体験学習を引率しました。そこでも日々の学びを实践する姿、蒔田っ子らしいやさしい姿が見られ、非常にうれしい気持ちになりました。2年生の遠足でのこと。子どもたちはお楽しみのアスレチックで遊んでいました。中でも一番人気はちょっと長めの滑り台。順番待ちのため列ができていました。「早く、早く」そんな声が聞こえてきそうな雰囲気でしたが、代わりに聞こえてきたのは、「小さい子が来たよ。通してあげて。」という言葉でした。みんなで端により小さな子（年少さんくらいの子でした）を先に滑らせてあげる姿を見て微笑ましい気持ちになりました。5年生の体験学習では、野外炊事で協力して活動する姿、登山で遅れがちになる子に優しく声かけをして励ます姿に、蒔田っ子には大切なものがしっかりと育っているなど感心しました。

さて、これからの社会は「将来の予測が困難な複雑で変化の激しい社会」だと言われます。アメリカの学者キャシー・デビッドソンは「2011年度に小学校に入った子どもの65%は大学卒業後、現在まだ存在しない職業に就く」「今後10～20年で、雇用者の約47%の仕事が自動化される」という予測を発表しています。その変化に応じ、学校教育においても、社会の変化に受け身で対処するのではなく、自ら課題を発見し、他者と協働してその解決を図り、新しい知・価値を創造する力を育成することを重視した教育へと、大きく舵を切り始めています。しかしながら、同時に、いかに人工知能が発達し、社会が変化しようとも、変わらずに大切にしていすべきものを見失わず、しっかりと子どもたちに教えていきたいと思えます。豊かな人間性、人と協調する心、人を思いやる心、感謝する心、人権を尊重する心、自然を愛する心。そのような不易なものを大切に、しっかりと育てていくためには、学校・家庭・地域が三位一体となって子どもたちを導いていくことが肝要だと考えています。「自然にあいさつを交わすことのできる街・学校 蒔田」これからも変わらずにそうあってほしいと思えます。今後ともご支援・ご協力をお願いいたします。